



SPINAL INJURIES CENTER

独立行政法人

労働者健康安全機構

総合せき損センター





「受診してよかった」と 思われる病院でありたい

基本方針

- 1、脊髄損傷の専門病院であることを自覚し、救命救急の初期治療から社会復帰まで一貫した医療を行います
- 2、患者さんの人権を尊重した医療を実現します
- 3、安全で良質な医療を行います
- 4、高度な脊髄損傷医療の普及に努めます

建物配置図



沿革

昭和49年労働省(当時)において、現有施設での脊損患者の長期滞在化、欧米諸国に比較して立ち遅れている社会復帰の現状が確認され、昭和50年度の重要労働施策の一環として、脊損患者等の先駆的専門医療施設設置の構想が出されました。

労働福祉事業団(現/労働者健康安全機構)では、雇用促進事業団(現/高齢・障害・求職者雇用支援機構)と共に検討を重ね、西欧諸国の実情調査の結果、総合せき損センター設置の機運が高まり、福岡県並びに飯塚市の強力な誘致もあり、当地に建設することが決定しました。昭和51年11月敷地造成工事に着工し3年を経て、昭和54年3月に竣工し、同年6月1日に診療を開始しました。

概要

- 開設年月日：昭和54年4月1日
- 診療科目：整形外科、泌尿器科、内科、リハビリテーション科、脳神経外科、麻酔科
- 病床数：150床
- 病院開設承認：昭和54年5月21日(厚生省 第151号)
- 敷地面積：98,271.00㎡
- 建築面積：18,334.43㎡
- 延床面積：24,940.41㎡
- 診療棟：RC2F(一部4F)
診療部門、リハ部門、病棟、手術部門、医用工学研究部
- 管理棟：RC2F 管理部門
- 障害者病棟：(2病棟 100床)
- 一般病棟：(1病棟 50床)
- 厚生棟：RC3F(一階部分のみ)
(はなみずき) 洋室10室、多目的トイレ、車椅子専用高床式浴室
- 駐車場：118台、屋根付き26台
- その他施設：ヘリポート、ホスピタルプラザ、テニスコート(車椅子テニス用)



救命救急の初期治療から社会復帰までを一貫。

総合せき損センターは、脊髄脊椎疾患患者を対象とした病床数150床の専門病院で、年間800例以上の手術を行っています。なかでも脊髄損傷患者に対して、救命救急の初期治療から社会復帰までを一貫として管理するシステムをとっています。早期治療、早期リハビリテーションを基本としており、入院当日から手術後も翌日から積極的にリハビリテーションを行っています。また、診療圏が西日本一円と広いので緊急患者搬送のためのヘリポートも併設されています



院長代理あいさつ



総合せき損センターは、昭和54年に本邦で初めての脊髄損傷専門施設として飯塚の地に開設されました。母体は全国32の労災病院を運営する独立行政法人労働者健康安全機構です。当時は脊髄医療や脊髄に対する社会支援が極めて未熟な時代であったため、先進的な施設、制度を持つ欧米との格差を憂えた九州大学整形外科第3代教授の故天児民和先生の提言が発端となり、脊髄損傷に対する急性期から社会復帰まで一貫した専門治療を提供するモデル病院として誕生しました。以来、各職種が連携しながら良質で高度な脊髄医療を提供するのみならず、患者さんの社会復帰支援、臨床・基礎研究、脊髄医療の普及・教育などに力を入れてまいりました。80%を超える高い社会復帰率を維持できているのは、ひとえにこれまで培ってきた当センターにおけるチーム医療の賜だと自負しております。平成31年には開設40周年を迎えますが、急患脊髄入院患者数は2600名を越え、今や本邦随一の脊髄専門施設として国内外から高く評価されております。

特記すべきこととして、当センターでは外傷以外の脊椎脊髄疾患（椎間板ヘルニア、脊髄症、脊髄管狭窄症などの変性疾患、側弯症などの脊柱変形、脊椎脊髄腫瘍など）治療においても本邦有数の手術実績を誇っております。9名の脊椎脊髄病指導医、リハビリテーション科専門医を擁しており、年間700例以上の脊椎脊髄手術を行っておりま

す。術後は、充実したリハビリテーション施設とスタッフを生かして、患者の満足度を十分に考慮したリハビリテーションが行われているのも当センターの特徴の一つといえるでしょう。

また、泌尿器科指導医のもと、脊髄外傷や脊椎変性疾患に合併する神経因性膀胱の専門治療を行っており、この分野でも国内外の高い評価を得ております。一般泌尿器科疾患（前立腺肥大、過活動膀胱、膀胱炎など）に対しても積極的に診療を行っておりますが、平成29年からは女性泌尿器科外来を開設し、地域の医療ニーズに答えるべく努力をしております。

患者満足度調査では国内で有数の高い満足度を達成していますが、「受診してよかったと思われる病院でありたい」の理念のもと更なる努力を積み重ねて参りたいと思っております。

平成31年4月 院長代理 前田 健

脊椎・脊髄損傷の 専門病院だからできる。

脊椎・脊髄損傷の患者さんを救急救命の初期治療から社会復帰まで、チーム医療による一貫した専門医長を行っています。一般の脊椎脊髄疾患に対しても積極的に治療を行っており、本邦有数の手術症例数を誇っています。

診療部門

年間約 800 症例もの脊椎手術。

脊髄損傷専門病院として年間約 80 名の急性期及び慢性期の脊髄損傷患者（ヘリコプター搬送患者数約 40 名）に対し高度な治療を行っています。脊柱管狭窄症や椎間板ヘルニア、側弯症など外傷以外の脊椎疾患に対しても積極的に診療を行っており、脊椎外科専門病院として年間約 800 症例の脊椎手術を行っています（平成 31 年 4 月現在：日本脊椎脊髄外科指導医 9 名）。毎週 4 回の症例カンファレンスを行い、術前術後の詳細な検討の基、個々の患者の診療を進めています。脊髄損傷例については毎月 1 回整形外科、泌尿器科、リハビリテーション科が合同のカンファレンスを行い、診療方針を決めています。また、種々の学会活動、セミナー開催を通じて臨床研究、医療スタッフの教育に力を注いでおり、脊椎診療の向上に寄与すべく高い理想に向かい日々の診療を行っています。



診療部門医師



泌尿器科では、脊髄損傷、脊椎疾患における神経の障害によって排尿機能／性機能が障害された病態を専門に診断・治療していますが、前立腺肥大症・過活動膀胱・尿失禁・間質性膀胱炎などの一般疾患も診断・治療を行い、女性医師による女性泌尿器科外来も開設しています。

外来診療部

いつも笑顔絶やさず、患者満足度向上のために。

患者さんが、気持ちよく安心して診療を受けて頂けるよう、いつも笑顔絶やさない接遇に努めています。再来の診療は予約制を導入し待ち時間短縮を図っています。また、遠方から来院される方のために宿泊施設も併設しています。脊損看護における在宅支援や地域との連携を視野に入れ、褥瘡（床ずれ）及び排せつ関連の相談ができる看護外来や電話相談を行っています。



外来受付窓口

看護部

「患者さんにやさしく信頼される看護をめざします」を理念に。

脊髄損傷や脊椎変性疾患を中心に、急性期においては全身管理による合併症の予防を行いつつ、早期に開始されるリハビリテーションがスムーズに行われるよう、日々のコミュニケーションを大切にしながら日常生活の援助を行っています。また、個々の障害に合わせた社会復帰ができるように、他職種との情報交換も密に行いながらご家族を含めた退院後の生活指導や自立にむけた支援を行っています。



スタッフステーション

薬剤部

安全で良質な薬物治療を皆様に

薬剤部では、安全で良質な薬物治療を提供するよう努めています。

病棟では、薬剤管理指導や血中濃度モニタリングなどを通して適正な薬物治療を提供しています。また外来でも、おくすり手帳などを活用し、おくすりの重複投与や相互作用の回避に取り組んでいます。

このほか、チーム医療として NST・褥瘡対策・感染制御・排泄管理チームの一員として積極的に活動しています。



薬剤部

中央検査部

患者さんに寄り添った医療を行います。

検査部では、主に生化学、血液、輸血、尿、採血、生理検査等を行っています。

手術の際は、脊髄の手術には欠かせない術中脊髄モニタリングを行い安心して安全な医療を提供できるよう努めています。また、下肢静脈エコーを実施し肺塞栓予防にも取り組んでいます。



術中脊髄モニタリング

中央放射線部

患者さんの安全を考えた装置システム。

中央放射線部では、一般撮影、CT 検査、MRI 検査、脊髄造影検査、骨密度検査などを行い、適切な診断や治療に不可欠な医用画像の提供を行っています。

当センターの特徴として、脊髄造影検査、救急患者撮影を安全かつ正確に行うために C アーム型の装置を使用しています。その他の検査においても患者さんの安全に配慮した検査を行います。



多目的デジタル X 線 TV システム



1.5 テスラ MRI



16 列マルチスライス CT



O-arm
イメージングシステム

中央リハビリテーション部

脊髄損傷者の初期治療から社会復帰までの一貫したリハビリテーション



理学療法 (PT)



作業療法 (OT)



日常生活動作練習室 (トイレ)



スポーツ (ホスピタルプラザ)

中央リハビリテーション部は、理学療法 (PT) と作業療法 (OT) で構成されており、脊髄損傷や脊椎脊髄疾患を対象としたリハビリテーションを行っています。手術後または受傷後の早期からリハビリを開始し、日常生活の練習や、車いすでの生活に必要な様々な動作練習、自動車への移乗練習や装具や機器を使った歩行練習・スポーツなど、患者さんの社会復帰をあらゆる面でサポートします。さらに、医用工学研究室と連携して、住宅改修の相談や日常生活支援機器の導入にもアプローチしています。

栄養管理室

患者さんに安全で安心の食事療法を。

栄養管理室では、治療のために患者さん個々の病態にあわせた食事を安心して食べていただくために、HACCP※注に基づく衛生管理を行い、安全な食事が提供できるよう努めています。

食欲のない患者さんや栄養状態の不良の方へは管理栄養士が病室へ伺い、症状や意見をもとに個別対応での食事療法や、栄養サポートチーム（医師・薬剤師・看護師・検査技師・作業療法士・管理栄養士で構成）による栄養状態の改善も行っています。また、栄養指導や栄養相談では、患者さんの検査値を基に、食生活、食習慣を考慮した指導を個別に実施しています。



栄養サポートチームカンファレンス

※注 ハサップ（食品の衛生管理システムの国際標準）

医療連携室

ご遠慮なくご相談ください。

医療や福祉の関係機関と密接な連携を図り、患者さんに適切かつよりよい医療サービスを目指しております。

病院間の紹介や入退院手続きについて何かございましたら、お気軽にご相談ください。例えば、次のようなことを行っています。

- ・入院患者さんやご家族への退院・転院・施設入所等の支援
- ・他医療機関との連携・情報交換
- ・医療福祉相談（社会復帰・家庭復帰・職場復帰について不安があるとき、社会福祉制度の利用について、介護保険の手続きや利用について、訪問看護・ホームヘルパーなどの利用について等）



患者さんの相談風景

医用工学研究室

福祉用具や住環境の調査・研究・開発と技術支援。

医用工学研究室は、脊髄損傷患者の早期社会復帰や、日常生活環境の改善を工学的側面から支援しています。

生活に必要な福祉用具の調査、研究開発・普及、職場・学校・自宅等における生活環境の整備や福祉用具の導入に関する相談をリハビリテーションスタッフ、MSW と看護師と共同で行っております。

また、開発品や市販の福祉用具の展示ホール、各種実験のためのスペースを備え、試用体験とあわせて情報を提供しております。



住宅改修相談



展示ホール



ステップマスター



車いすレーザー用グローブ



新せき損式坐墊挿入器



入院棟



特別室



介助浴室



個室シャワー室



障害者用トイレ

玄関・ロビー



総合受付



ロビー 1



売店



ロビー 2

レストランなごみ



入口



店内風景 1



カウンター



店内風景 2

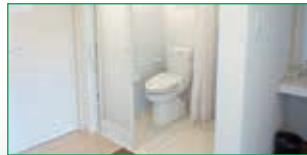
厚生棟はなみずき



はなみずき駐車場



洋室



トイレ



高床式シャワー

ホスピタルプラザ・テニスコート



外観

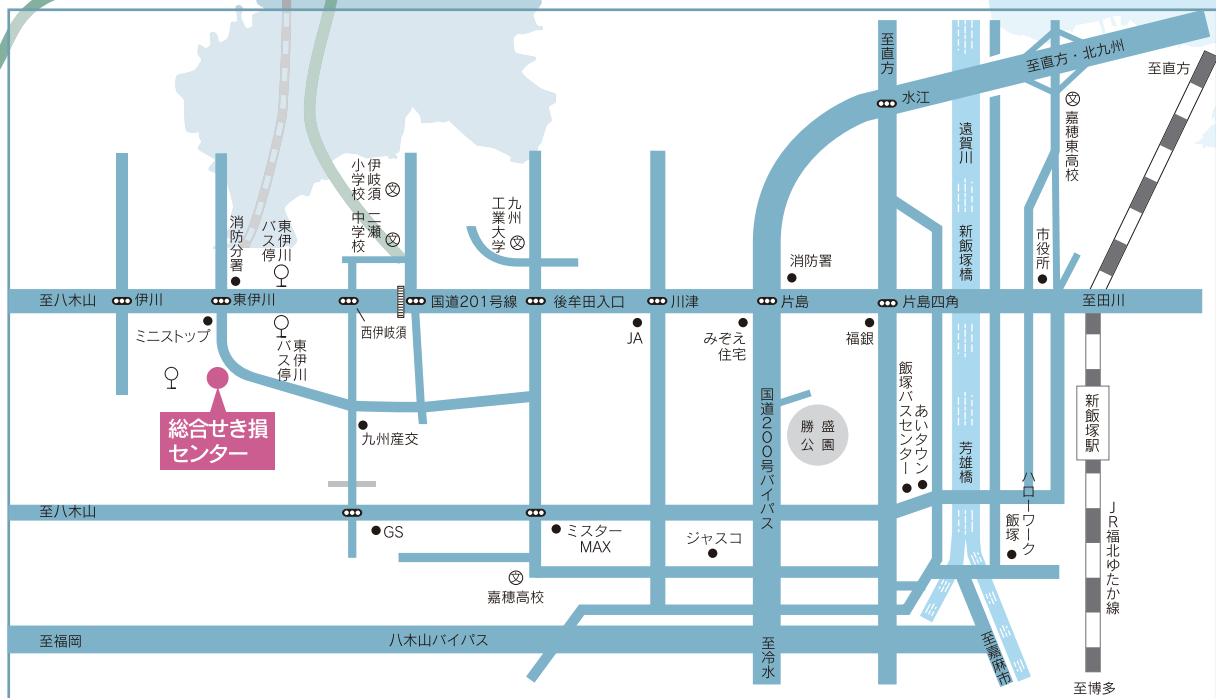
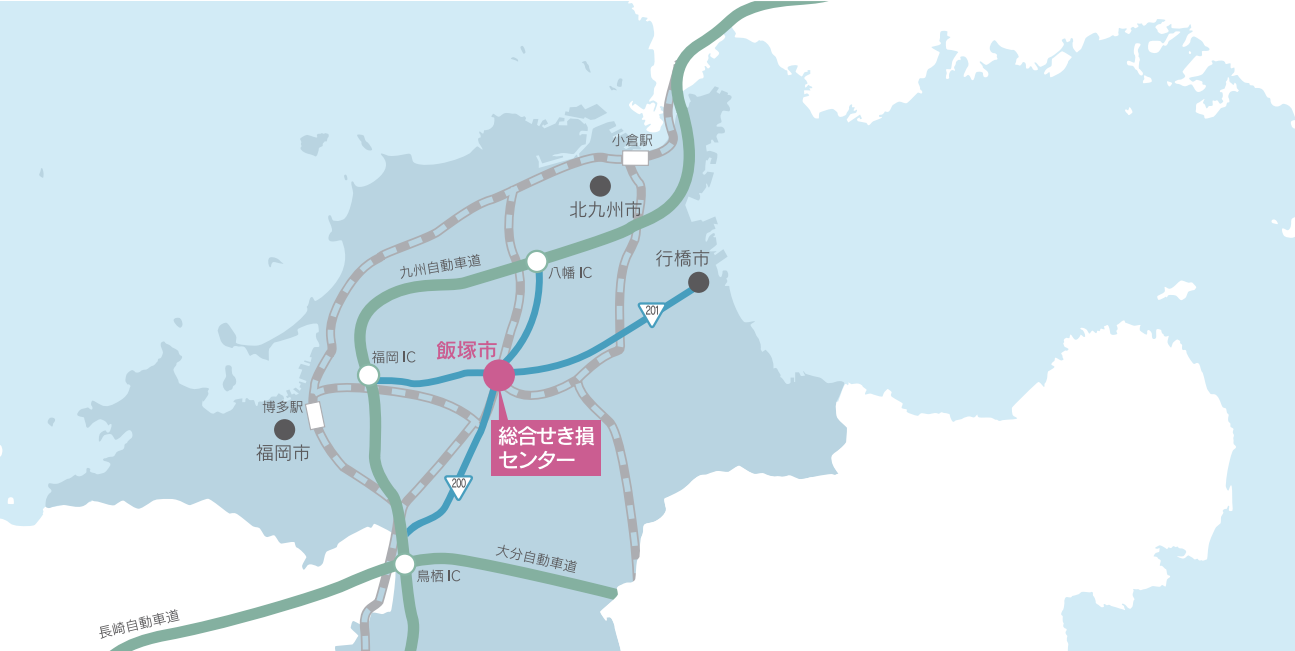


室内コート



屋外コート





福岡方面
からお越しの方

- JR+西鉄バスの場合
- JR「博多駅」→(福北ゆたか線 / 快速 40分)→「新飯塚駅」下車
 - 西鉄バス「新飯塚駅」→(飯塚行き等 / 10分)→「飯塚バスセンター」にて乗換
「飯塚バスセンター」→(福祉センター行き / 20分)→「総合せき損センター」下車

北九州方面
からお越しの方

- JR+西鉄バスの場合
- JR「小倉駅」→(鹿児島本線 / 快速 20分)→「折尾駅」にて乗換 (新飯塚駅直通も有)
「折尾駅」→(福北ゆたか線 / 40分)→「新飯塚駅」にて下車
 - 西鉄バス「新飯塚駅」→(飯塚行き等 / 10分)→「飯塚バスセンター」にて乗換
「飯塚バスセンター」→(福祉センター行き / 20分)→「総合せき損センター」下車



独立行政法人 労働者健康安全機構
総合せき損センター

〒820-8508 福岡県飯塚市伊岐須 550-4
TEL0948-24-7500 FAX0948-29-1065 <http://www.sekisonh.johas.go.jp>